

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-154170

(P2012-154170A)

(43) 公開日 平成24年8月16日(2012.8.16)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
E 0 6 B 1/62 (2006.01)	E 0 6 B 1/62 A	2 E 0 1 1
E 0 5 D 15/06 (2006.01)	E 0 5 D 15/06 1 2 5	2 E 0 3 4

審査請求 有 請求項の数 2 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2012-113825 (P2012-113825)	(71) 出願人	306034033
(22) 出願日	平成24年4月25日 (2012. 4. 25)		エスエッチ・サンキョウ株式会社
	基礎とした実用新案登録		広島県尾道市因島中庄町字文久新開489
	実用新案登録第3151964号		5-15
原出願日	平成21年4月30日 (2009. 4. 30)	(72) 発明者	池田 隆
			広島県尾道市因島中庄町字文久新開489
			5-15 エスエッチ・サンキョウ株式会
			社内
		Fターム(参考)	2E011 JA02 LB02 LB03 LB07 LD02
			LD04 LD07 LE02 LE12 LF04
			2E034 AA05

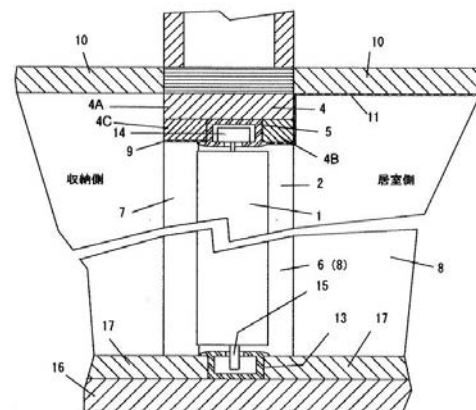
(54) 【発明の名称】 戸開閉縁の仕舞い構造

(57) 【要約】

【課題】 戸を設置する開口縁の従来の戸枠の突出によるデザインの不連続性を解消するに当たり、戸枠の素材使用量を大幅に削減すると共に、施工作業性を向上させた戸開閉縁の仕舞い構造を提供する。

【解決手段】 戸1、1・・・が開閉自在に装着される開口2の上方縁に前端が壁下地の表面と実質的に面一となるように上枠4を装着し、この上枠4の下面部に上レール5を配置すると共に、開口2の左右の縦開口縁6、6の奥部に添うように化粧凸条7、7を装着し、壁下地に貼られた化粧シート8を折り曲げて、上枠4の前面及び上レール5前方の露出下面並びに化粧凸条7前方に露出する縦開口縁6を隠蔽し、上レール5の奥部下面に化粧面9を施すことにより、所期の課題を達成できた。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

戸 1、1・・・が開閉自在に装着される開口 2 の上方縁に前端が壁下地 3 の表面と実質的に面一となるように上枠 4 を装着し、この上枠 4 の下面部に上レール 5 を配置すると共に、開口 2 の左右の縦開口縁 6、6 の奥部に添うように化粧凸条 7、7 を装着し、壁下地 3 に貼られた化粧シート 8 を折り曲げて、上枠 4 の前面及び上レール 5 前方の露出下面並びに化粧凸条 7 前方に露出する縦開口縁 6 を隠蔽し、上レール 5 の奥部下面に化粧面 9 を施して成る戸開閉縁の仕舞い構造。

【請求項 2】

戸 1、1・・・が開閉自在に装着される開口 2 の上方縁に前端が壁下地 3 の表面と実質的に面一となり且つ下端が天井下地 10 と実質的に面一になるように上枠 4 を装着し、この上枠 4 の下面部に上レール 5 を配置すると共に、開口 2 の左右の縦開口縁 6、6 の奥部に添うように化粧凸条 7、7 を装着し、天井下地 10 に施された化粧材 11 の連出部で上枠 4 前方の露出下面を隠蔽し、壁下地 3 に貼られた化粧シート 8 を折り曲げて、化粧凸条 7 前方に露出する縦開口縁 6 を隠蔽し、上レール 5 の奥部下面に化粧面 9 を施して成る戸開閉縁の仕舞い構造。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、戸開閉部の形成に際し、従来の化粧枠の使用をなくし、化粧枠により生じていた段差及びデザイン性の不連続感による美観の劣化を解消すると共に、従来の戸枠の素材の使用量を大幅に低減させると共に仕上げ処理を低減させて、コストダウンを図り得る戸開閉縁の仕舞い構造に関するものである。

【背景技術】

【0002】

部屋と部屋との通路に設けられる扉や、収納室の開口を塞ぐ扉を設ける場合、壁面に設けられた開口に上枠、縦枠等よりなる戸枠を取付けておき、その戸枠に扉や戸を開閉自在に装着することが、従来から採用されているが、戸枠は壁面より突出し、しかも開口縁を隠取ることになって、デザインの的に不連続感を与え、外観を劣化させる場合もあった。また、戸枠が扉以外に必要となり、部品点数及び施工工程が多く、しかもいずれも扉の開閉に際して露出する部位であるため、戸枠には化粧を施す必要も免れず、コストが高くなっていた。

【0003】

このような観点に注目して従来から戸枠の厚みを壁材の厚みに一致させてクロスで戸枠を隠蔽することは従来から行われている（特開 2007-2417 号公報参照）。しかしながら、戸材としては、素材の使用量的には殆ど減少せず、しかも戸枠の複雑な凹凸に添ってクロスを貼付することが却って煩瑣となり、施工が困難となっていた。

【0004】

【特許文献 1】特開 2007-2417 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明は、戸開閉部の形成に際し、戸枠により生じていた段差及びデザイン性の不連続感による美観の劣化を解消すると共に、従来の戸枠に比して大幅に素材の使用量を低減させると共に、従来の戸枠周りの仕上げ処理を低減させて、コストダウンを図り得る戸開閉縁の仕舞い構造に関するものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の主たる特徴は、戸 1、1・・・が開閉自在に装着される開口 2 の上方縁に前端が壁下地 3 の表面と実質的に面一となるように上枠 4 を装着し、この上枠 4 の下面部に上レ

10

20

30

40

50

ール5を配置すると共に、開口2の左右の縦開口縁6、6の奥部に添うように化粧凸条7、7を装着し、壁下地3に貼られた化粧シート8を折り曲げて、上枠4の前面及び上ルール5前方の露出下面並びに化粧凸条7前方に露出する縦開口縁6を隠蔽し、上ルール5の奥部下面に化粧面9を施したことである。

【0007】

また、本発明の第2の請求項の特徴は、戸1、1・・・が開閉自在に装着される開口2の上方縁に前端が壁下地3の表面と実質的に面一となり且つ下端が天井下地10と実質的に面一になるように上枠4を装着し、この上枠4の下面部に上ルール5を配置すると共に、開口2の左右の縦開口縁6、6の奥部に添うように化粧凸条7、7を装着し、天井下地10に施された化粧材11の連出部で上枠4前方の露出下面を隠蔽し、壁下地3に貼られた化粧シート8を折り曲げて、化粧凸条7前方に露出する縦開口縁6を隠蔽し、上ルール5の奥部下面に化粧面9を施したことである。

【発明の効果】

【0008】

本発明にあっては上述のように、請求項1の発明は、戸1が施される開口2の上端が天井より下方に位置する場合であり、開口2の左右及び上端に従来のような戸枠部材が露出せず、戸1の外周と壁面との境界部に縁取りがなくなり、すっきりとしたデザインにできる。また、従来戸枠は開口2の壁断面巾よりも広い巾の部材が必要であるが、本発明では左右の部材は化粧凸条7のみとなるため、使用部材が従来の枠材、特に上下方向に長い縦枠材の素材使用量が数分の1以下となって、素材使用量が大幅に削減できてコスト低減に大いに寄与できる。そしてこの化粧凸条7の前方の壁下地3が露出する縦開口縁6も壁下地3に貼付される壁紙などの化粧シート8を折り曲げて貼り付けて隠蔽するため、外観を損なうこともない上に、化粧シート8による隠蔽処理も化粧シート8の端を一回だけ折り曲げて貼り付けるだけで良いので、施工性も損なわれない。

【0009】

また上枠4の前面及び上ルール5より前方の下面は化粧シート8が貼付されるので、上枠4として、この部位の化粧仕上げが不要となり、この点からもコスト低減に繋がる。上ルール5の奥部下面は化粧面9であるので、戸1が開けられた状態でも外観を損なうことはない。

【0010】

請求項2は開口2を天井丈に広げた場合であって、上枠4の上ルール5より前方は天井の化粧材11が延長されて施されるので、この場合でも上枠4として、この部位の化粧仕上げが不要となり、コスト低減に繋がり、上ルール5の奥部下面はやはり化粧面9であるので、戸1が開けられた状態でも外観を損なうことはない。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

以下本発明を添付図面に基づき詳細に説明する。図1、2は天井が高い場合のように、戸1、1・・・が装着される開口2の上端が壁の途中までの例であって、2枚の戸1、1を蝶番12で折畳み可能に連結した折り戸を1対として、1対、2対、或いはそれ以上の枚数が開閉可能に開口2に設置される。ここで図示例は前方が居室側、奥が収納側であるが、勿論居室と居室の境界、居室と廊下との境界等、任意の戸設置開口に適用できる。尚、図1は開口2の片方が隣の壁との境界に合致した例であるが、図2のように両方とも同一の壁面3の途中に在っても良い。勿論、両側共隣の壁との境界に合致していても構わない。

【0012】

上枠4は実質的に壁の厚みと同じ巾を有するか、或いは少なくとも前端面が壁下地3と実質的に面一に装着されるもので、図3のように基材4Aの下面中央に上ルール5を装着し、上ルール5の前後を前ブロック4Bと後ブロック4Cで保持しており、前ブロック4Bは無化粧でも良いが、後ブロック4Cは化粧面9が施される。ここで天井下地10よりも図3のように上枠4の厚み分が下方に突出する場合は、天井下地10を被う化粧材11の

端を下方及び奥方向に折り曲げて上枠 4 の露出前面と前方下面を被う。

【0013】

図 4 は左右の化粧凸条 7 の施工状態を示すもので、開口 2 の左右の縦端面の奥端に添って上下に固着され、露出する表面は化粧が施されている。この化粧凸条 7 の前方の開口 2 の縦開口縁 6 は壁下地 3 に貼付される壁紙などの化粧シート 8 の端を折り曲げて覆い隠蔽する。

【0014】

開口 2 の下縁には図 3 のように必要に応じて下レール 13 が施され、戸 1 の適所に施された上ランナー 14 は上記上レール 5 に、下ランナー 15 はこの下レール 13 に装着されて、戸 1 が開口 2 に折畳みにより開閉自在に設置される。尚、戸 1 の形態は、任意であり、折畳み形式の他、下ランナーを用いない引戸でも構わない。

10

【0015】

図 5 は開口 2 の上方に壁下地 3 がある例で、その壁下地 3 に貼付される化粧シート 8 の一部をやや下方に延長すると共に水平奥方向に折り曲げて上枠 4 は上レール 5 の手前まで隠蔽される。

【0016】

図 6 は上枠 4 が天井下地 10 に埋設され、開口 2 の上端が実質的に天井下地 10 下面と同一の例で、壁紙のような化粧シートに代え、天井の化粧シート、化粧板等の化粧部材 11 の端部を延長させて上枠 4 の前ブロック 4B の下面を被っている。それ以外は第 1 項に記載の発明と共通している。

20

【産業上の利用可能性】

【0017】

本発明は、戸 1 を設置する開口 2 の周辺に付き物の戸枠の出っ張りをなくすことにより、デザインをシンプルにすっきりと纏めることができる。この場合、図 1～6 における上下レール 5、13、化粧凸条 7 を壁表面側に移動させて戸 1 が閉じられた時に図 7 のようにその戸 1 の表面が壁下地 3 に施される化粧シート 8 と面一となるようにしておき、戸 1 の表装を更に化粧シート 8 の表装 4 と一致させれば、戸 1 が壁面に更に溶け込んで一体化し、恰も戸が無いかのように見えるようにすることも可能となり、戸の周辺をより一層すっきりと納めることができる。

【0018】

30

しかも縦枠の素材使用量が数分の一になるために、省資源、コスト低減に大いに寄与するものであり、しかも化粧シートや化粧材の端部処理も僅かに 1 回か高々 2 回折り曲げるだけで良いので、作業性を損なうこともない。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図 1】本発明の一実施例の概略図。

【図 2】同上の少し変形した例の分解斜視図。

【図 3】同上の要部の一部省略した拡大縦断面図。

【図 4】同上の要部の拡大横断面図。

【図 5】同上の上枠付近の他の例の拡大縦断面図。

40

【図 6】同上の上枠付近の更に他の例の拡大縦断面図。

【図 7】同上の戸の表面を壁面と一致させた例の一部省略した拡大断面図。

【符号の説明】

【0020】

1 は戸

2 は開口

3 は壁下地

4 は上枠

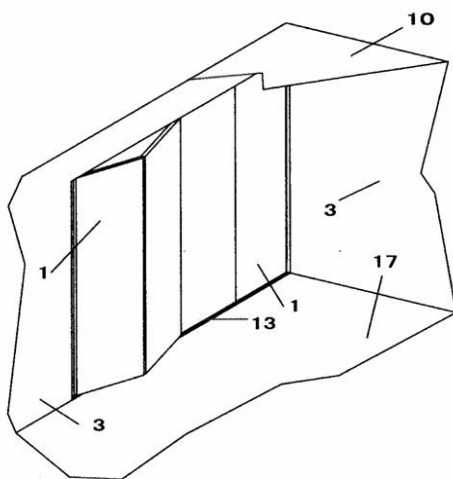
5 は上レール

6 は縦開口縁

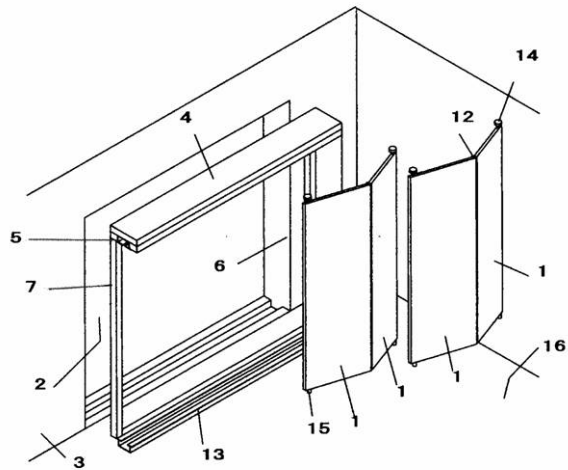
50

- 7 は化粧凸条
- 8 は化粧シート
- 9 は化粧面
- 10 は天井下地
- 11 は化粧材

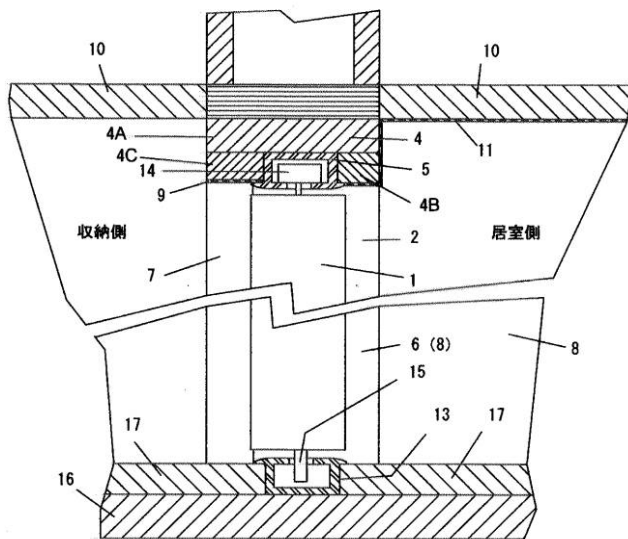
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

